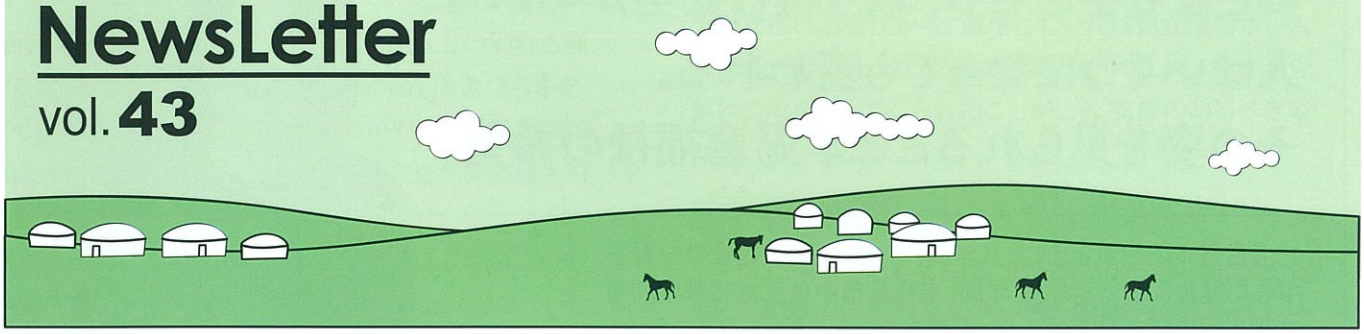
NPO法人子どもセンター「パオ」ニュースレター　発行:子どもセンター「パオ」事務局　発行日：2021年1月5日

NPO法人 子どもセンター パオ

NewsLetter

vol.43

新年のひと言「次の時代を生きる子どもたち」●
渡邊佐知子さんインタビュー●



新年のひと言「次の時代を生きる子どもたち」

理事長　多田　元

2020年は新型コロナ禍が世界に広がる（パンデミック pandemic）1年でした。子どもセンター「パオ」の創立14周年記念イベントも中止となりました。シェルター「丘のいえ」、自立援助ホーム「ぴあ・かもみーる」で、ひとりでも感染が発生し家庭内感染の危険が生じたら、たちまち子どもたちは居場所を失う危機となります。その中で、生活支援スタッフたちは神経を張りつめながら、それを表面に現すことなく、変わらぬ態度で温かく子どもたちに寄り添い支えてくださっています。そのスタッフらをはじめ、子どもたちのパートナー弁護士の皆さん、「パオ」を応援してくださる皆様に支えられて、「パオ」は多難な年に活動を続けることができました。「パオ」でそれぞれに心と体を回復し、新しい人生の道を拓(ひら)こうとしている子どもたちとともに、深く感謝を申し上げます。そして、本年も変わらぬご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

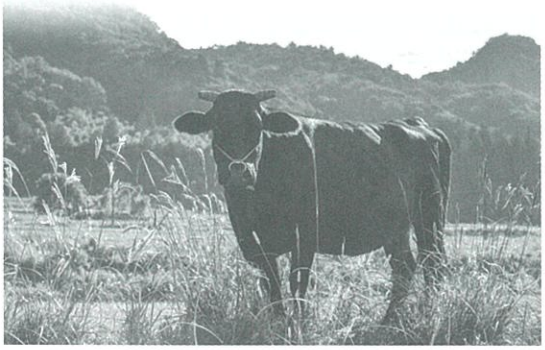
新型コロナパンデミックについても、国境を超える医療の相互協力など、人々の共存が危機を克服する道と言われます。底知れない生活不安の先にある次の時代を生きる子どもたちにとって、子どもを信頼し、温かく見守り、子どもに耳を傾けるおとなとのパートナーシップで、共に生き、共に育つ社会参加の権利を広げていくことが必要です。子どもたちを、生活苦のみならず、人間関係の貧困と権力による分断で苦しめてはならないのです。

いま、児童福祉法と共に子どもの育ちを支援する、重要な法である少年法を「厳罰化」へと変え、少年が人との良い関わりのなかに受容され、成長、更生する機会を奪う分断の政治の動きもあります。

「パオ」は子どもたちを真ん中に、子どもの成長発達の権利への支援の輪を広げることを願って歩みを続けます。

新年の干支(えと)は丑（牛）、高村光太郎の詩「牛」の断片を想います。

牛はのろのろと歩く
牛は野でも山でも道でも川でも
自分の行きたいところへは
まっすぐに行く
牛はただでは飛ばない、ただでは躍(おど)らない
がちりがちりと
牛は砂を掘り土を堀り石をはねとばし
やっぱり牛はのろのろと歩く
牛は急ぐことはしない
牛は力いっぱいに地面を頼って行く
自分をのせている自然の力を信じきって行く
ひと足、ひと足、牛は自分の力を味わって行く
ふみ出す足は必然だ



「牛」より一部抜粋　高村光太郎